

平成 26 年度 新発田市生活科部 活動報告

部長 岡田 美希

1 研究主題

自分の思いをもち、いきいきと活動する子どもの育成

2 研究の概要

子どもたちがいきいきと活動する姿、活動をとおして気付いたことを素直に表現する姿を目指して研究を行った。また、授業研究に向けて、講演会を実施した。



3 研究の実際

4月 研究テーマ・活動計画の立案

6月 講演会「原点回帰～生活科ってどんな教科～」
講師：新発田市立二葉小学校 教諭 土田利康 様

11月 授業研究

2年単元名「すすめ！かさ袋ロケット」

授業者：新発田市立佐々木小学校 教諭 若月優子先生

指導者：新発田市立二葉小学校 教頭 土田利康 様

○本時のねらい

かさ袋ロケットがより遠くへ飛ぶ工夫を考え、友だちと協力して試すことができる。

○本時の構想

- ①大きいサイズのかさ袋で意欲関心を高める。
- ②工夫の視点を押さえ、活動に見通しをもたせる。
- ③グループ活動で競争心、意欲を高める。
- ④思考錯誤できる場を構成する。

4 成果と課題

<講演会>

○講演を聴いて生活科の基礎的、基本的なねらいを教えていただいた。「教科書にあるから、昨年度も行ったから」などで、決めてしまいがちな単元があったが、見直すきっかけになった。

○気付きの質を高めるために、教師が何をねらいとし、子どもに何に気付かせていくのかを明確にして授業を行っていくことが必要であることが分かった。

<授業研究>

○予想外の大きさのかさ袋を使うことで、子どもたちが意欲的に活動できた。

○教師が意図的にグループを分け、そのグループで活動させることで、子どもたちの関わりが機能していた。

○かさ袋をどのように工夫するかを3つに絞ったことで、子どもたちが考えやすかった。

○グループ活動する場、製作する場、飛ばす場が区別してあり、子どもたちは活動しやすかった。

▲授業の最後に「大会をしよう」と投げかけていたが、それを授業の途中で投げかけ、子どもたちが大会を目標にできるとよかった。また、それぞれのグループがどこを工夫したのか話す場があると、子ども同士の関わりや個の気付きの質を高めることにつながったのではないかと。

▲グループ活動を始める前に、かさ袋が何もない状態でどこまで飛ぶのかを試し、それを踏まえて作戦を立てると子どもたちの目標がよりはっきりした。

御指導

- ・先行研究を参考にして、身の回りにある素材、興味のわく素材、発展性のある素材を選択していることで、子どもたちが意欲的に活動している。
- ・単元の導入で、十分に素材に触れさせたことで、子どもたちが創造を膨らませて活動することができた。
- ・限定をかけることで、子どもの活動がしやすい場合もあるが、ダイナミズムや創造性が制限されてしまうこともある。
- ・教師の意図はあるが、それが子どもの思考に寄り添っているかどうかの方が大事である。